

しあさい



初冬の物見崎(白糠)

CONTENTS

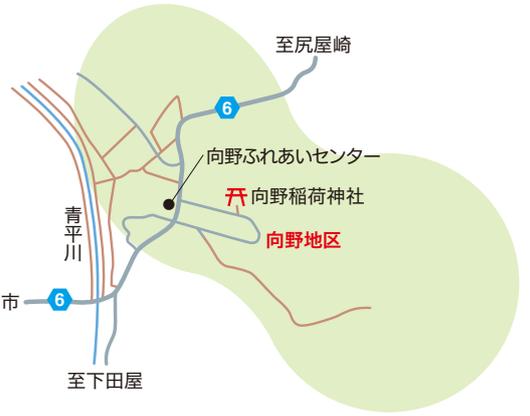
- 特集記事 シリーズ⑥ ふるさと見聞録 むかしの 向野を訪ねて……………2
- 明日へのかけはし:野牛漁業協同組合……………4
- クローズアップ こんにちは元気さん: まっか 真賀 かつひこ 勝彦さん……………4
- ファイト!わんぱく:東通小学校吹奏楽部……………5
- 地元の特派員レポート: すすき 鈴木 きょうが 希冴君 / あおき 青木 のりこ 祝子さん……………6



東通村イメージキャラクター
かんだちくん



老若男女が分け隔てなく仲良く暮らす!



むかいの 向野を訪ねて

開拓地の固い絆で結ばれた、助け合い精神が強い地域

東通村目名地区の南側、目名川を挟んだ丘陵を通る、県道むつ尻屋崎線沿いにある集落が向野地区です。

目名地区出身の二男や三男が開拓した土地で、昭和25年までには17戸が点在していました。

昭和26年には目名開拓組合を結成し、県にお願いして土地を購入。目名地区から分村・独立しました。

集落は、向野稲荷神社を中心に形成され、東通村で電気が通ったのは最も遅く、昭和34年になってからでした。この時、点在していた家々は中央に集まったそうです。

向野婦人会が「餅つき踊り」を踊って電気を通すための負担金を捻出したと伝えられています。

地区ができた頃の基幹産業は林業でしたが、畑でイモも作り、電気が通った頃からは草刈り場を水田に変え、17軒に1ヘクタールずつ割り当てて、米作りが始まりました。

また、馬を飼っていて、山から木を切り出したり、農耕にも使っていました。家々には乳牛が一頭ずついたそうです。

むつ市に隣接していることから、現在はむつ市から移り住んだ人も多く、6割から7割が会社勤めの世帯です。野菜を作る農家は4軒、30年前に村が推奨したブルーベリー農家が7軒。

神社は向野稲荷神社で、目名の個人から社を譲り受け、令和元年に神社を新築。むつ市田名部にある熊野神社から御神体を譲り受け、奉納してもらいました。

神社の祭典は、9月最後の日曜日です。熊野神社の宮司に祈祷してもらい、神事を行った後、目名神楽会による獅子舞の奉納が行われます。直会は集落の全戸から人が集まって、賑やかに行われています。

集落の活動としては、月に一度集集会を行い、地区内の困りごとや心配事、一人暮らし世帯の様子など話し合い、対策を講じています。神楽、消防、青年団は、目名に加入しています。

開拓者集落のため、どこよりも助け合いの精神が強く、固い絆で結ばれた地域です。



向野稲荷神社



向野稲荷神社のお堂

地区内に住むみんなから会費を徴収し、お金の管理をしたり、祭りの時の買い出しなどを行っています。向野は、新しい地区なので序列もなく、年齢が離れた人にも気さくに話しかけることができ、肩肘張らず楽に暮らせる地域です。困ったことが起きた時は親身に相談に乗ってくれます。話し合いでは自分の意見を言うことができ、きちんと聞いてくれる先輩たちがいる、暮らしやすいところです。



向野地区 会計
さくち たかゆき
菊池 貴行さん(48歳)

和気あいあいと仲良く暮らす集落です。高齢化は進んでいますが、むつ市から移り住む人も多いため、今後、若い人がもつと増えてくれればと思っています。



向野地区

ふれあいセンターに、お地蔵様!?「ババ会」が仲睦まじく守る

向野地区の人たちが、月に一度集まる「向野ふれあいセンター」の大広間には、お地蔵様が祀られています。



向野ふれあいセンター

地区のおばあさんたちの集まりである「ババ会」が管理し、大切に見守っています。

新型コロナウイルス蔓延前は、みんなで毎月一度集まって参拝していましたが、コロナで中止に。今年からは2ヶ月に一度集まってお参りし、その後は、それぞれが作った料理を持ち寄り、楽しく和やかに、一日中交流が行われています。



ふれあいセンターの中にあるお地蔵様の祭壇



お地蔵様

向野地区 会長 かわかみ としお 川上 俊雄さん(73歳)

向野地区は、世帯数35戸人口200人。気候が温暖で災害も無く、本家分家の隔たりがない、住民同士が仲の良い地域です。

月に一度、全戸が集まって地区を良くするためにさまざまなことを話し合っています。春祭りの時は男性が桜の木の剪定、女性は集会所の清掃を行うほか、集会所の屋根のペンキ塗り、草刈り、電柱の外灯の交換など、協力して行っています。道路の環境美化にも力を注いでおり、平成28年には青森県から、令和2年には日本道路協会から表彰されました。

今後も先輩から受け継いだ仲の良さを継続し、次の世代に繋げていきたいと思っています。



開拓の精神を受け継ぎ、48歳から20年間、地区会長を務めました。小学生の頃から畑作業を行い、朝ご飯も作って家の手伝いをしてきました。向野には「ゆいがいえし」といって、近所の人に手伝ってもらったら手伝い返すという精神が、今も残っています。開拓で苦労したからこそ、この地域の人々は絆が強いのだと思います。



目名開拓組合 組合長
きくち けんいち
菊池 憲一さん(76歳)



向野地区 前地区会長
しもかわ としお
下川 俊雄さん(76歳)

35年前から目名開拓組合の組合長を務めています。入植当初、向野に住む仲間と組合を作り、県に陳情して補助金をもらい、土地を購入。更に組合で土地を分割して、みんなが豊かに暮らせるように活動してきました。

今は主に土地の維持管理を、みんなと相談しながら行っています。向野は昔からまとまりがあり、

明日への かけはし

東通村の頑張るグループを紹介

荷捌施設新設で新鮮な魚介を全国へ [野牛漁業協同組合]

本州最北東端、下北半島の東部、潮の流れが速い津軽海峡に面する入口、古野牛川、野牛の3地区の漁業拠点が、野牛漁業協同組合です。組合員は149人、秋はサケ、冬はタコ、春と秋はヒラメのほか、初夏に獲れる養殖の「地まきほたて」は身が大きく美味しいと全国から注目を集めています。

「地まきほたてを始めてから50年、安定供給できるようになってからようやく10年になりました。潮の流れが速い海域に直接稚貝をまき、砂地の海底で自然に育つので、付着物が少なく貝が綺麗。身が締まって歯ざわりも良く、潮の風味がそのままなんです」と三國優組合長。



落成記念式典の様子



テープカット



野牛漁協役員一同

老朽化に伴い荷捌施設を新設し、今年10月に落成記念式典を挙行。三村申吾青森県知事、畑中稔朗村長、松下誠四郎青森県漁業協同組合連合会会長らがテープカットを行って完成を祝いました。

1万ケースが並ぶ陳列エリアや、高度な衛生管理と鮮度を保つ海水の殺菌装置、活魚に使用する冷却装置、地まきほたての直売所や貝柱を冷凍できる加工施設を新設。三國組合長は「今はほたてだけですが、魚も一次加工して販売したい。将来は施設を有効



代表理事組合長 三國 優さん

活用し、付加価値をつけて高値で魚を販売できるよう努めたい。獲る漁業から育てる漁業へシフトしなければと考えています」と話していました。



新しくなった野牛漁協荷捌施設

村内で元気に活動する人を紹介!

元気さん

“きれいな農業”に本気で取り組む!
まっか かつ ひこ
真賀 勝彦さん(62歳)

農業が大好きで、東通村役場を定年退職後、本格的に農業を始めた真賀勝彦さんにお話を伺いました。

東通村蒲野沢生まれの真賀さんは、高校を卒業後、役場職員となり、農業委員会を最後に退職。現役時代から趣味で行っていた農業に、今、積極的に取り組んでいます。

育てているのは、青森県の新品種で生食が注目されている「青森きくらげ」、花の美しさに魅了された「トルコ桔梗」、東通村特産のほうれん草「寒立菜」。



青森きくらげの菌床に散水



青森きくらげ



寒立菜の播種作業



収穫前のトルコ桔梗

産直や市場へ出荷し、花は生花店や葬儀場へ届けているそうです。

「まだまだ趣味の延長なので技術的に大変ですが、それぞれの先生の指導を仰ぎながら作業しています。寒立菜が思い通り濃い色にできた時、花が美しく咲いた時が一番嬉しいです」と真賀さん。こだわりは、消費者の立場に立って、手間はかかっても、どこよりもきれいに野菜を出荷すること。「ずっとハウスの中にいて体を動かしているのが健康になりました」と笑顔。

元気の秘訣は、一生懸命農業をやって、ソフトテニスなど趣味を楽しみ、夜はお酒を飲んで、無理しない程度に忙しくしていること。

「泥だらけにならない、きれいな農



業を目指しています。そうしないと後継者が育たないと思うから。特に花の管理は、今後パソコンを使って肥料や温度の管理に挑戦したい。自然任せだとお盆の出荷に遅れてしまうのです。あまり手を広げず、花ならば長い期間出荷できるように頑張りたい」と話していました。



東通小学校吹奏楽部

みんな明るく、力を合わせて協力し合い、美しい音色を奏でる東通小学校吹奏楽部。昨年度は、青森県アンサンブルコンテスト下北地区大会、小学生の部管打四重奏で金賞を受賞しました。

部員は4年生から6年生まで16人。西山^{にしやま}絵夢^{えむ}先生、平田^{ひらた}守^{まもる}先生、村中^{むらなか}直恵^{なおえ}先生、山崎^{やまざき}めぐみ先生指導のもと、毎週火曜日と木曜日の放課後、音楽室で練習に励んでいます。

練習方法は、チューニングをした後、音階練習、パート練習を経て合奏を行います。発表会やコンクールの前は、むつ市から特別講師を招いてアドバイスを受たり、アンサンブルコンテストの場合は、講習会に参加するなど、演奏技術の向上に懸命です。



管楽器の演奏



打楽器の演奏



東通小学校吹奏楽部の皆さん

初めて楽器に触れる4年生は、個々にあった楽器を選んだ後、先輩のパートに入って音の出し方から学び、吹けるようになるまで昼休みや自宅でも練習を行っています。また、小学校から吹奏楽部があることで、中学校の吹奏楽部に入っても土台がしっかりしていて、スムーズに演奏できるようです。

現在練習しているのはOfficial髭男dismの「Mixed Nuts」とAdoの「新時代」。いずれもアニメの主題歌で難しい曲ですが、美しい音が出せるようになった時の喜びを知っているからこそ、みんな頑張っているのです。

部長で6年生の中山莉緒^{なかやま りお}さんは「3年生の時に楽器の演奏体験をしてから、フルートを演奏しています。他の楽器にはない高い音色が大好きです。合奏では、それぞれの楽器の音がキレイに重なった時、一体感で心が満たされます。これ



吹奏楽の合奏



吹奏楽の合奏

からも演奏を続けて、いつか大きなコンサートに出てみたい」と話してくれました。

指導にあたっている西山先生は「部活動としての練習時間が短い中、みんなとても頑張っています。楽器の演奏は忍耐です。諦めない心が培われ、練習した分、必ず上達します。そして楽器が演奏できることは一つの強みになります。演奏できる環境に感謝しながら、豊かな音色が出せるよう努力を惜しまず、楽しんで吹奏楽を続けて欲しい」と呼びかけていました。

部長
なかやま りお
中山 莉緒さん
(6年)





村内各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

レポートは10月に作成し
写真は特派員が
自ら撮影したものです。



白糖の海

東通村白糖在住 すずき きょうが
東通小学校(6年) 鈴木 希呀君(11歳)

僕の住んでいる白糖は村の一番南にあります。10年前に「泊・白糖トンネル」が開通してスムーズに早く

泊まで行けるようになり、とても便利になりました。

海は太平洋の水平線がはっきりと見え、空と海の「ブルー」がとてもきれいです。天気の良い日に通った時はぜひ、車を



泊・白糖トンネル



物見埼灯台(白糖灯台)

停めてみてください。

白糖には真白な物見埼灯台(白糖灯台)が船の安全を見守っています。その近くには赤岩神社(そうぜん様)が建っていて船や住民の安全を見守っています。白糖には神社が「5社」もあります。昔、馬や牛などを飼っている家が多かったそうです。僕の家でも馬を飼っていたそうです。

白糖の主な産業は漁業です。春はコウナゴ、夏はスルメイカ、秋はサケ、ヤリイカ、冬はサクラマスなど。もちろんヒラメ、マグロ、ブリといった高級魚もたくさんとれます。磯ではウニ、アワビ、ふのり、こんぶなどもとれます。そんな宝物いっぱいの白糖の海を汚さず、きれいな海を守っていきたいです。



白糖漁港



東通村に嫁いで

東通村稲崎在住 あおき のりこ
青木 祝子さん(40歳)

以前働いていた職場の出張で下北に来て、顔なじみの人たちと冗談交じりの挨拶を交わし、その時の縁で東

通に嫁いで約10年が経ちました。東通に来た当初は、カモシ



カモシカ

カが普通に道路を歩いている光景に興奮していましたが、2年目くらいになると当たり前のことになりました。

食も、津軽海峡で育った外海ホタテは、身も厚く、歯ごたえもあって、陸奥湾ホタテとはまた違った美味しさ

があり、毎年実家や友人に送ってます。

春先には、義父が採ってきたネカブを、「下処理で焼くのは自分の仕事!」と率先してお手伝いする息子が頼もしいです。自分が子どもの時はこういう経験をしなかったので、自然に囲まれて育つ経験を将来大事にしてほしい



お手伝いする息子

ものです。

交通や買い物に不便なところもありますが、自然豊かで人と人との繋がりを大事にしていると感じる部分が多々ある東通です。



北部海岸

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糖字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

発行

しおさい、PSつうしんの
バックナンバーはこちら



誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に
末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

編集後記

しおさい第27号は、いかがでしたでしょうか。

今回の「ふるさと見聞録」では、向野地区誕生の経緯など、当時の貴重なお話を伺うことができました。向野地区の皆さまの仲の良さや互助精神による固い絆が感じられ、とても温かい気持ちになりました。

また、取材にご協力いただいた多くの皆さま、本当にありがとうございました。

今後も、東通村の皆さまに親しまれる広報誌の作成に努めてまいりますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願いいたします。